

国 どうしょう
銅鐘 (千用寺)

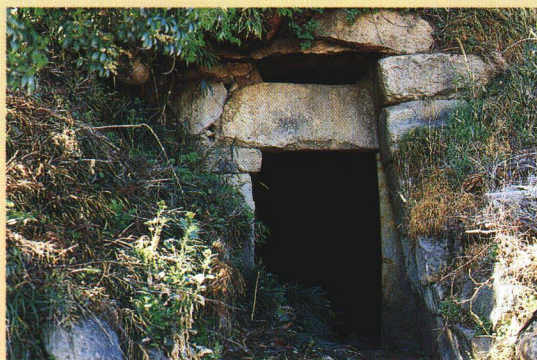


6

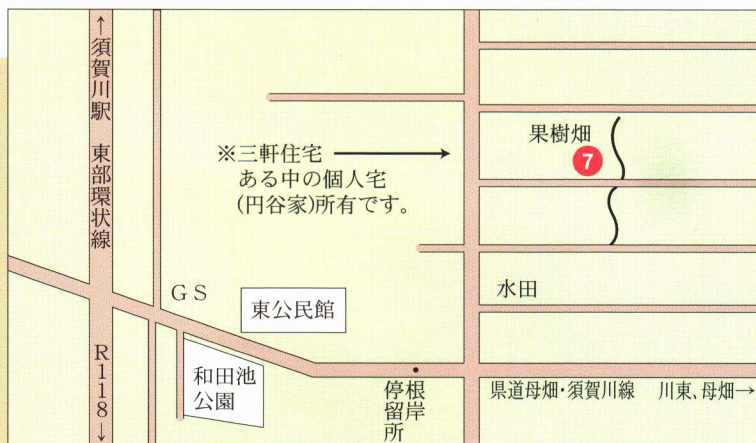


げんろく
元禄10年(1697)須賀川宿中町の藤井惣右衛門が発起人となって千用寺に時の鐘として寄進したと伝えられている銅鐘です。藤井惣右衛門家は町役人として代々時鐘関係を取り仕切っていたらしく、安政4年(1857)の町益金(当時の町予算の財源)所調控によると藤井惣右衛門が時鐘管理金について差引整理した記録が残されているとともに鐘撞人は、町会所から給金をもらっていたことなどがわかりました。千用寺は現在諏訪町にありますが、当時は町の中央部である中町にあったことから、須賀川宿全体に聞こえる千用寺境内に時鐘を設置したのと考えられます。

県 えぞあなこふん
蝦夷穴古墳



7

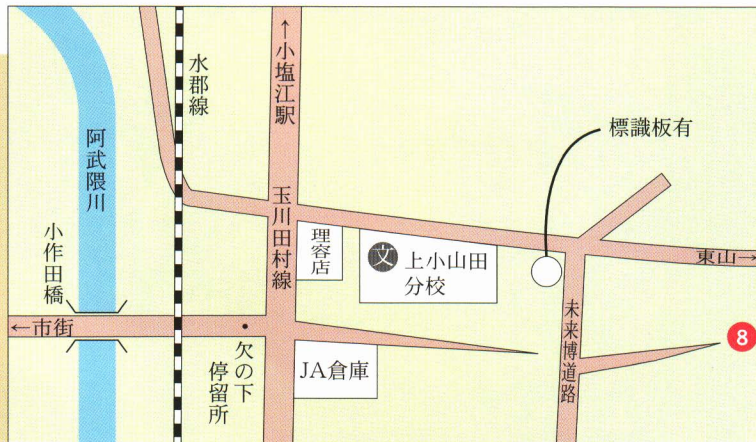


この古墳は、現在墳丘裾部が削平されているため当時の形を留めていませんが、直径約36m、高さ約4~5mの円墳と考えられます。死者を埋葬する横穴式石室は墳丘の南南東に開口(当時は埋葬後閉じる)しており、入り口から石室の奥壁まで約11mもあり東北地方では最大級のもので。石材は、凝灰岩で奥壁の一枚と天井石の2枚は特に巨大で、当時の土木技術水準の高さをみることができます。石室からの出土品は明治時代の発掘により、金銅製頭椎大刀をはじめ多数の副葬品が発見されたことから、当地方を支配していた有力な豪族の墓であったと考えられています。なお出土品は、現在東京国立博物館に収蔵されています。

県 こでらさん まつなみき
古寺山の松並木



8



この松並木は、大字上山田にある古寺山白山寺の参道の両側に植栽されたもので、赤松の大木を主とし、杉の大木を若干混ぜた並木です。ほとんどが目通り幹回り2~3m樹高20~25mで、最大のは目通り幹回り4m、樹高30mもあり、樹齢は200~300年に達しています。これらの赤松は、樹肌が赤茶色で樹冠は傘状をなした見事なものばかりで、植栽間隔は短いですが赤松の並木としては高い価値があります。またこの松並木の付近には、鎌倉時代の板碑が数基あり当時の地方信仰の場としても重要です。古寺山自奉楽は、この松並木の参道を通って白山寺に向かいます。